

校長室だより(No.11)

令和3年6月22日
丹波市立黒井小学校長
谷口 千尋

「学びのあしあと 6年生 人権学習交流会」

人権学習交流会(春日地域)



資料館での学習(校外学習)



水平社についての学習(教室)



春日地域で人権学習について交流するために、コロナ禍の本年度は、それぞれの学校に講師の先生に來校いただきお話を頂きました。

来年度から中学校で共に学ぶ6年生が「人権」について同じ足場に立ち大切な学びが始められるようにこの取組が始められました。当初は、12月に学びのまとめとして行っていました。インフルエンザ等感染症の流行期にもなるため、6月の学びのスタートに合わせたものとなりました。

講師の先生のお話の中では、人権学習を進めていく上で、大切にしたい3つのこととお話しいただいたと感じています。

ひとつ目は、「知ること」です。知識的側面つまり人権に関する知識を得てほしいということだと思います。今の社会で起きている問題。6年生の子どもたちからは、障がい者差別という言葉も出ました。ひろく言えば、自由や責任、正義、個人の尊厳、権利、義務などについての知識です。現代のことだけでなく過去に何があったかも今後、学んでほしいと思います。人権の歴史についての知識です。今年も人権にかかる学習施設への見学を予定しています。また、日本のことだけでなく、世界の現状や課題、歴史についても広く学ぶ機会があればと考えます。南アフリカのネルソン・マンデラ氏や野球のジャッキー・ロビンソン氏については、子どもたちもよく知っていて入っていきやすいと考えます。

ふたつ目は、「感じる」ことです。どんなことでも自分の問題として考える感覚と説明されました。いじめなどは、子どもたちにとって身近な問題で考えやすいと思います。傍観者にならないことがいじめ問題の解決につながることは、繰り返し話をしているところです。人権問題についても同じことが言えます。しかし、この人権感覚を持つことが一番難しいと思います。そのためにもこの学習のベースともいえる人権意識を学校全体、地域全体でいかに醸成するかが課題だと考えます。「エレベーターの定員」や「交通渋滞」を例に話していただきました。学校でも挨拶や片づけ等を大切にしているのは、ここにあります。

最後は、「動く」です。ひとつ目で知識を得て、ふたつ目に考え、最後は、「行動」することです。特にふたつ目の「感じた」ことをもとに「動く」ことが大切だと考えます。「これはおかしい。」「間違っている。」と感じたことはまず自分が止める。やっている人を止める。みんなでおかしなことを変えていくことに繰り返し、辛抱強く取り組むことが大切だと思います。

人から学ぶ、人と考える、人のために行動することが春日地域の6年生全体に広がることを願っています。